資料番号	地域１

令和８年 11 月 19 日
課　名　地域政策局公共交通政策課
担当者　担当課長（交通活性化担当）矢島
内　線　2585

芸備線再構築協議会第 10 回幹事会の開催結果について

１　概　要

芸備線 備後庄原駅～備中神代駅間の交通手段再構築を議論する「芸備線再構築協議会」について、令和８年 10 月 27 日、第 10 回幹事会が開催されたため、その結果を報告する。

〔芸備線再構築協議会の概要〕
○　特定区間：備後庄原駅（庄原市）～備中神代駅（岡山県新見市）
○　構 成 員：中国運輸局（議長）、岡山県、広島県、新見市、庄原市、
　　広島市、安芸高田市、三次市、ＪＲ西日本、学識経験者　ほか
○　位置づけ：特定区間の交通手段再構築を協議する場

２　現状・背景（経緯）

令和５年 10 月　３日　ＪＲ西日本が、地域交通法に基づき、備後庄原駅～備中神代駅間における再構築協議会の設置を要請
令和６年　３月 26 日　第１回芸備線再構築協議会 開催　※以降も協議会・幹事会を開催
令和８年　７月 16 日　第７回芸備線再構築協議会 開催
　　10 月 27 日　芸備線再構築協議会第 10 回幹事会 開催

３　主な議事

（１）実証事業Ｂの実施報告
（２）鉄道・バスの比較検討など調査事業の実施状況
（３）その他　構成員からの自由意見

４　議事の内容

（１）実証事業Ｂの実施報告

①　事務局である中国運輸局から、バスを活用した実証事業の実施内容を報告

○　平日のバス実証運行
・　目的　鉄道と他の交通モードの比較検討を行うため、平日の芸備線運行にあわせて、住民向けの平日バス実証を実施
・　実施期間　令和８年６月１日～９月 30 日の月曜日～金曜日（祝日を除く）計 83 日
・　運行事業者　庄原側：備北交通(株)・西城交通(有)、新見側：備北バス(株)

○　土休日のバス実証運行
・　目的　実証事業Ａにおける臨時列車と同等の運行区間・時間帯において、観光客向けの休日バス実証を実施。
・　実施期間　令和８年７月４日～９月 27 日の土日祝　計 31 日
・　運行事業者　庄原側：(有)石田タクシー、新見側：備北バス(株)

○　定期券利用者などの芸備線日常利用者を対象とした乗車モニター調査　など

②　実証事業Ｂのバス運行事業者から、バス実証の利用実態や事業者として考えを報告

○　備北交通（庄原市）
・　実証バスの主な利用属性は、高校への通学、買い物、通院であった。
・　沿線住民の主な移動手段は自家用車であり、実証バスの利用者は少ない印象である。
・　運転士を含む労働者不足が全国的に問題となっており、それを原因とする交通空白が生じないよう、交通問題をまちづくりの問題の一つとして考え、庄原地域の持続可能な公共交通の実現に向けて、関係者が一体となって取り組んでいく必要がある。
・　備北交通としては、地域の活性化に向けて、地域の関係者とともに全力で取り組む。

○　備北バス（新見市）

・　実証バスは、駅から離れた市役所・高校・商業施設・病院などの生活拠点を直接結ぶ生活交通として機能し、特に朝夕の通学時間のバス輸送人員は堅調であった。

・　最適な交通モードが、鉄道あるいは鉄道以外のいずれの場合でも、新見～東城間は生活交通としての「バスの可能性」を見出してもよいと考える。

【構成員の主な意見】

構成員	主な意見
岡山県	○　今回のバス実証事業について、新見～東城間では高校生による一定程度の利用があったことや、乗り換えなく目的地まで行けるため便利であるとの声が出ており、実証事業の結果の一つとして受け止めている。
新見市	○　今回のバス実証を通じて、新見～東城間の通学や生活交通としての一定の需要、更には生活導線に合った移動手段としての機能が確認されたことは、今後の地域の交通体系を考える上で参考になる。

（２）鉄道・バスの比較検討など調査事業の実施状況

○　事務局から、実証事業Ａ・Ｂを通じた鉄道とバスの比較検討結果を説明

主な比較項目	鉄道	バス
実証事業を１年間実施した場合の費用	8.5 億円	2.1 億円
実証事業を１年間実施した場合の経済波及効果額	4.3 億円	2.4 億円
各モードで再構築した場合の初期費用と運営費用	初期費用 11.1 億円～15.1 億円 運営費用 7.4 億円	初期費用 2,000 万円 運営費用 2.1 億円
各モードで運行する場合に必要な人員	運行人員　14 名 保守人員　41 名	運行人員　22 名 保守人員　 8 名
まちや住民の暮らしにとっての定性的な価値	・広域的な交流の提供 ・地域の絆と活力の醸成	・自宅付近での乗降が可能で、利用者の負担が軽減 ・悪天候時でも移動できる安心感の提供
地域の経済や観光にとっての定性的な価値	・鉄道資産や里山資源を活用した誘客と消費の創出	・観光資源などを組み合わせた周遊ルート設定による誘客と消費の拡大
災害・気象リスクへの対応力	・災害による輸送障害 （2024-2025 平均） 芸備線特定区間：52 件/年 （要因：風水害、雪害、地震等）	・災害による輸送障害 （2024-2025 平均） 備北交通運行区間：5.5 件/年 西城交通運行区間：0 件/年 備北バス運行区間：0 件/年

※これ以外にも、地域が目指すまちづくりとの整合性などについて比較検討が行われている。

○　また、事務局から、実証事業が９月末で終了し、実証事業などを通じて得られたデータとファクトが出揃ったこと、また、再構築方針の策定に向けて、構成員間で議論を深めるため、11 月下旬開催の第８回再構築協議会で提示する再構築方針の事務局骨子案については、事務局として鉄道・他の交通モードのいずれかを選択して記載する旨を説明

【構成員の主な意見】※広島県意見は、（３）その他でまとめて発言

構成員	主な意見
岡山県	○　事務局が 11 月に示す骨子案については、地域住民が理解しやすく、分かりやすい内容とすることが重要であり、こうした点に留意して作成をお願いしたい。
新見市	○　事務局骨子案については、沿線住民の日常の交通手段の確保、地域経済・観光への波及効果、そして自治体の持続可能な負担の在り方を総合的に勘案した、現実的かつ実効性のある方針案としてまとめてほしい。

構成員	主な意見
庄原市	○　事務局骨子案については、データとファクトに基づき、どのような視点を重視して最適な交通モードを導き出したのか、分かりやすい説明をお願いしたい。 ○　運転手を含む労働力不足が見込まれる中、持続的な運行を確保するため、ＪＲ西日本としてどのような連携や協力ができるのか、ＪＲの考えを伺いたい。 ⇒（ＪＲ西日本回答） ○　鉄道維持の場合は、昼間列車の運休により、昼間時間帯でのメンテナンス時間を確保することや、保守に係るロボットの活用や特定技能外国人労働者の受入れなど、人材確保と生産性向上の両面から対応を進めている。 ○　他モードに転換する場合は、当社グループや地元交通事業者と協調した運行も含め、事業者や地元自治体の意向を聞きながら、対応していきたい。

（３）その他

【構成員の主な意見】

構成員	主な意見
広島県	○　全体を通じて発言するが、11 月開催の第８回再構築協議会で提示される再構築方針の事務局骨子案について、鉄道・他の交通モードのいずれかを選択して記載する旨の説明があったが、考えの提示に当たっては、その理由や根拠を丁寧に整理し、構成員だけでなく、地域住民や関係者にとって分かりやすい説明としてほしい。 ○　今後の再構築方針策定に向けた議論については、地域住民や関係者の理解と納得を得ながら、より一層丁寧に進めていく必要があるため、スケジュールありきとならないよう配慮をお願いしたい。
新見市	○　仮に他モードへの転換を選択する場合には、ＪＲ西日本から運行経費等に係る支援をいただけるのか、ＪＲの考えについて、今後の協議会や幹事会で示してほしい。 ⇒（ＪＲ西日本）どのような支援ができるか検討し、協議会等で示していく。
庄原市	○　庄原市の観光・地域活性化につながるアイデアを募集し、市のまちづくり施策への検討を活かすことを目的に独自調査を実施しており、その結果については、12 月開催予定の幹事会で一定の報告ができるよう取り組んでいく。 ○　今後、11 月の協議会で骨子案が示される予定であることを踏まえ、その前後で、実証事業の取組状況や比較検討の考え方、骨子案の内容等について、市民に直接説明する機会を設ける。
神田 教授	○　鉄道とバスそれぞれに特性があるため、どちらかのモードを選択する時に、もう一方の特性を補完する視点で検討してほしい。 ○　再構築方針の策定に向けては、20～30 年先の沿線地域の将来像を踏まえつつ、持続可能な交通の在り方を検討することが望ましい。

５　今後の対応

○　11 月下旬開催の第８回再構築協議会で、再構築方針の事務局骨子案が提示され、事務局として、鉄道・他の交通モードのいずれかを選択して記載することが示されたが、事務局に対し、その理由や根拠を丁寧に整理することや、構成員だけでなく、地域住民や関係者にとって分かりやすい説明となるよう求めていく。

○　また、今後の再構築方針策定に向けた議論については、地域住民や関係者の理解と納得を得ながら、より一層丁寧に進めていく必要があることから、スケジュールありきとならないよう、引き続き、事務局に求めていく。

○　庄原市が実施する住民説明会（11/9・12・13、12/7・10・11 に庄原・西城・東城の３地域で実施）に本県からも出席し、対応していく。

６　その他

（１）今後のスケジュール（予定）

令和８年 11 月下旬　第８回芸備線再構築協議会　※以降も協議会・幹事会を開催予定

（２）予算（単県）　11,248 千円